会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（２）教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第3回授業改善サポーター養成講座開発委員会 |
| 開催日時 | 令和5年11月27日（月）15:00～17:00 |
| 場所 | デジタルハリウッド大学 |
| 出席者 | 事業責任者：成底　敏（OL）、岡村　慎一（OL）　　　　　計2名委　　　員：半田　純子、遠藤　和彦、猪俣　昇（OL）、合田　美子（OL）、栗林　直子（OL）、吉橋　大樹（OL）、伊藤　宏一郎（OL）計7名請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計10名 |
| 議題等 | 1. 11月の実証講座について①実施の概要の振り返り（猪俣）・『研修1（福岡）報告』『アンケート結果サマリ』参照②実証講座（福岡）について（合田）・グループワーク、事前課題共を協力的・積極的に実施していた・研修2も対面で実施したいという受講生の声があった・アンケートを受けて研修2のグループワークのメンバーを変更する・次回研修2はリフレクションをメインに講座を実施する予定③実証講座について〇吉橋委員・アクションプラン記入の時間を約20分増やすと良いと思った・受講生同士で交流する時間をより増やすとより良いと思った・モジュールCは難易度が高いという印象があった・研修の受講対象者にベテラン教員が多く研修が活発に進んだが、総務や事務職員は研修における授業内容のイメージが沸きづらいと考えた　→教務実施経験がある方を受講対象者に絞る必要があるのでは？・パソコン電源が無かったことで不便さを感じる受講生がいた〇伊藤委員・受講生全員が研修の目的意識を共有することができたように思ったが、受講者が優秀だったため、再現性を確立するのが難しいと思った・研修で学んだ内容を実務に生かしにくい感じる受講生が多く居たため、自信が出たかどうかのアンケート解答にばらつきがでたのでは？　→限られた時間の中で課題ボリュームを考慮しつつ、受講生をサポートする必要があると考えた〇岡村委員・今後、研修を広めていくためには事前の知識レベルを揃えるための情報提供が必要だと考えた・モジュールを３つの観点に絞り込むアイデアは良いと思ったが、モジュールの理解が進んだのは、事前学習を理解するための事前知識が豊富な受講生が多かったからかもしれない。　→事前学習のための事前知識レベルを揃える必要がある・研修と並行してサブファシリテーターも育成する必要があると思った・3回の研修を通して、なんのスキルをどのように身に着けているのかを実感するマイルストーンや、研修設計をする必要があると思った・研修には具体的な事例を盛り込んだ方が良いと思った・アンケートにて低評価をつけた受講生の理由が、個人背景によるものなのか、研修内容によるものなのかが気になった〇飯塚の意見・文科省には「授業改善サポーター養成プログラム」を納品する必要がある。合田先生以外の講師も研修ができる体制を作る必要がある　→講師の養成方法を検討する必要がある・現在は熊本大学のシステムを使用しているが、継続性担保のためのマネジメントシステムの管理方法も検討する必要がある・授業コンサルテーションができるようになったかどうかの評価基準も今後検討する必要がある〇成底委員・受講生の事前学習課題の完成度が人によりまちまちだったため、事前学習時間を確保する必要がある・現在は熊本大学の（大学事例の）モジュールを使っているため、専門学校の事例が無かった。　→専門学校の事例にモジュールを落とし込む必要がある・研修を通して得られた知見をどのように実務に活かすのかが分からない受講生のサポートも検討する必要がある〇遠藤委員・事後アンケートの表記方法を統一する必要があると思った・モジュールCの難易度が高かったのは、ITリテラシーの問題か？それともタスクの問題か？　→モジュールABの教材には図解があったものの、モジュールCは図解や改行が無く、読みづらかった（吉橋）④実証講座のあり方について、改善点の整理のまとめ（栗林）・事前課題における内容の改善方法（補足教材の追加等）・研修対象者を教務経験のある教員に狭める必要があるかどうか・グループにサブファシリテーターを設ける必要性・文科省納品にあたっての汎用性・継続性担保の課題（研修講師養成、評価方法等）2. リフレクションについて〇合田委員（研修2,3のリフレクション講座の展望）・3回の研修のうち1回は実際に授業改善をやることで、授業コンサルテーションへの自信をつけてもらいたいと考えている・教材は、専門学校にとって具体的で身近な事例を設ける予定・次回研修2は、アクションプランの結果をディスカッションすることで次の実践に結びつけ、さらに自信をつけてもらうようにする・事後アンケートの結果を踏まえて、グループを変更する・全体発表をして、受講生全体からフィードバックを得る機会を設ける・対象者によって、前提知識をどこまで求めるのかが異なる。今回はIDの知識がある教職員を対象としたが、対象者については改めて議論をする必要があると考えた・2019年度に研修講師養成のための研修を作成してもうまくいかなかったため、まずは良いパッケージを作ることを優先したい〇その他意見・12月11日の研修2と、1月15日の研修3のラグが狭い　→事前・事後課題量の調整をする必要があると考えた（成底）　→研修2・3は受講生のシラバスや悩みを議論する回にしたい・事前課題の学習が十分でなかった受講生がいたため、事前課題期間と研修の間にどのような支援の手段をとり、学校を巻き込んでいくのかを検討する必要がある（伴走のための関わり方等）（岡村・栗林）。・掲示板を通した事前課題のサポートは引き続き実施する（合田）→ゆとりあるタイミングで啓発支援を実施する必要がある（岡村）・研修2からは受講生同士のSlackワークスペースを作成し、コミュニティ作成を促すのは良いのでは？（成底）　→Slackのログは3か月間しか残らないため継続性が無くなる点に留意する必要がある（飯塚）（ログが残るDiscordを活用することも視野に入れる等）〇研修2,3（リフレクション）までの流れなど再確認（合田）・研修2,3（リフレクション）はZoomで実施する・リフレクションでは、委員がカメラオフでブレイクアウトルームに参加し、Zoom表記名の方法を統一する・自由にブレイクアウトルームを出入り出来るようにするが、ミュートで参加する・ディスカッションが捗っていないブレイクアウトルームがあれば、メインルームの合田に知らせる。もしくは、ファシリとしてサポートする。ただし、その場合はサポートをした旨を記録し、合田・委員内で共有する。・成底、岡村、栗林、飯塚は研修2（13時～16時）参加確定・研修2,3（リフレクション）終了後は参加委員全体でZoomにて軽い振り返りを行う3. 次回委員会について①次回委員会は令和6年1月29日15～17時〇議題の確認・1月15日研修3までで出てきた課題を共有する・コミュニティがうまく機能したかどうかを検証する・研修継続性の問題を検討し、振り返る・次回委員会はハイブリッド開催で行う・2月19日付で確定した事業成果物を作成する |
| 配布資料 | ・研修1（福岡）報告・アンケート結果サマリ |

以上